V 戦士

徳島県バレーボール協会中学校専門部便り　春季５３号

令和２年度　新型コロナウィルスに対する素早い対応

徳島県バレーボール協会
会長　　阿部　俊和

日頃は，徳島県バレーボール協会の諸事業に対しまして，ご理解・ご支援を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて，令和２年度は，新型コロナウィルスの影響で，多くの県内大会を中止せざるを得ない状況となりました。全国中学校バレーボール大会 2020in 静岡や全国都道府県対抗中学バレーボール大会の中止が早々と決まり，県予選や選考会もすべて中止となりました。

こうした中，中学校専門部及び高等学校専門部が，非常に早い時期から新型コロナウィルス対応に関する情報収集に努めてくれました。そして，「新型コロナウィルス感染防止対策ガイドライン」を作成し，「試合設定時間」などの導入を行い，選手のことを最大限考慮した大会運営の指針が作成されたことに関し，頼もしさを実感しております。こうした対応の結果，中学校で１大会，高等学校で２大会を開催することができました。

２専門部８連盟からなる大きな組織である徳島県バレーボール協会を預かる者として，この１年間はヒヤヒヤものでありました。どこかの専門部・連盟で開催された大会において，新型コロナウィルスに関するトラブルが発生した場合は，徹底的な原因解明を行うとともに再発防止対応策について検討することになります。

昔，勤めていた職場では，「きちんと出来て当たり前，出来ないことがおかしい」と，脳に刷り込まれるように教わりました。この言葉は当然のことであり，絶対にできるという準備が整うまで辛抱し，見切り発車はするなという戒めの言葉です。

今後，一番恐ろしいことは，新型コロナウィルスに対する気のゆるみや対応の慣れによるミスです。

ここ近日，各団体やマスコミなどが新型コロナウィルスとワクチンに対し，安易な方向性を示唆するようなコメントが目に付きだしました。こうした流れの中で，中学校専門部は，今後，「無観客試合の必要性」，「制限を加えた一部観覧試合の方法」など，大会を運営するうえでの大きな課題が与えられております。他県の状況や県内の他種目の状況を十分に聞き取り，「きちんと出来て当たり前」という考え方のもと，多方面からの検討をお願いしたいと思います。

最後になりますが，中学校専門部の今後ますますの発展を祈念しまして，文章を閉じさせていただきます。

中学校バレーボール「ルールと私」

徳島県バレーボール協会
元中学校専門部長　　奥村　健策

１．はじめに

私の楽しみの一つにテレビでのスポーツ観戦があります。選手をはじめ家族やチームのエピソードの紹介や競技の解説などいろいろな情報が提供されるので，それも楽しさを倍増させてくれています。最後まで全力を尽くして戦っている姿，喜びや悲しさ，苦しさ，悔しさ，安堵などといったさまざまな感情を素直に表現できるかっこよさ，拍手あり，笑顔あり，涙あり，励ましの絆ありと会場を包むなんともいいようのない一体感，これらすべてに感動を覚えます。ついつい「よかった」「頑張ったなあ」「残念」「ドンマイ」，「次」など画面に向かって語りかけ，時に涙する自分がいます。そして，この瞬間を味わえたことに喜びと感謝の気持ちがわいてきます。ありがたいことです。このような気持ちで競技が見られるのもつき詰めると，中学，高校とバレーボール競技に熱中することができたからだと思います。

２　バレーボール競技を通して

バレーボールといえば，強烈なスパイクやサーブ，華麗なレシーブ，手に汗握る攻防，多彩な攻撃，パワフルでスマートなかっこいいスポーツというイメージでしょうか。しかし，私の頭に浮かぶのは，消耗戦，屋外練習，ウサギ跳び，滝のような汗，膝・肘あて，全体責任（チームワーク），先輩の圧倒的な存在感，尊敬する恩師の存在，忍耐・根性・体力がものをいう泥臭いスポーツといったところです。

私がバレーボールを始めたのは中学生になってからです。もう５０年近くになります。当時バレーボールは，国民的スポーツとして人気が高く，県内に男子が３５チーム以上，女子はほとんどの中学校にチームがあったと記憶しています。

最近では，男子でも小学生の時からバレーボールをしている人もいますが，以前は，ほとんどの人が，中学校デビューでした。成長期でもあり体格も体力も大きく違う中でのスタートです。そのうえ，ジャンプしてボールを処理したり，手や腕だけでボールをコントロールしたり，中腰のまま素早く動くなど日常生活とはなじみのない動作のため，基礎を習得するのに苦労しました。私も先輩から教えていただいたのですが，教える方が大変だったと思います。それだけ先輩の存在は大きかったといえます。

入学して３か月ほどは，コートの準備や整備，ボール管理が主な仕事でした。外のコートでの練習（週３日）のときは，けがが起きないよう整備に時間をかけました。６月ごろまでの練習は，ボール拾いと筋トレやオーバー・アンダーハンドパス，アタックのフォーム作り，フライングレシーブや回転レシーブの基礎練習に明け暮れる日々でした。今は，ボールになじむことが大事で，できるだけ先輩と同じようなメニューを早くから経験しているのではないでしょうか。

ルールも今とはだいぶん違いました。若干違うかもしれませんが，記憶と経験をたよりに書かせていただきます。懐かしく思われる方もおられるのではないでしょうか。

３．ルールについて

①３カウント以内の返球

ブロックのボールタッチはそのままカウントされ，残り２タッチ以内で相手に返す必要がありました。当然チャンスボールも増えますが，レシーブを２段トスにして攻撃につなぐことも多くなります。アタッカーは，角度と高さのある２段トスを打ち切ることが求められました。

わかりづらいワンタッチは，ブロッカーが味方に知らせる必要があり，遅れると失点につながります。審判が気づかないこともあります。審判の立場からすると，ワンタッチの見逃しは，ゲームを左右する問題にもなります。ですから審判講習会では，審判台上で最大限ボールが見やすい角度をキープし，しっかり見ること，音にも注意を払うなど指導されます。誰の手のどの指先にあたったかまでわかってこそ笛に説得力が生まれると言われました。これは困難な作業で，確信の持てないワンタッチは迷いを生じさせることがあり，他のプレー場面で笛が遅れることもあります。今は，広い視野を保つため，ネットを中心に動きすぎないようになっていると思います。チャレンジの AI 判定は，バレーの「流れ」に影響を与え課題もありますが，公正を期すうえでは有効と思います。いろいろな大会でも導入が進むと面白くなるのではないでしょうか。

②サーブ権およびサーブについて

現在は，ラリーポイント制ですが，かつては，サーブ権がありました。得点は１セット１５点ですが，なかなか得点が動かないときもあります。特に両チームともサーブミスを繰り返すとリズムが悪くなり，試合が間延びしたような感覚になりました。

サーブは，サービスゾーン（ライトサイドから３ｍまで）があり，ネットにかかれば失敗になります。サーブの入射角度がある程度限定されるため，守備体型もとりやすくなります。そのためより威力のあるサーブが求められました。体全体を使って手のひらいっぱいで打つドライブサーブは，手首の使い方次第で縦方向に鋭く落とし，左右に曲がりを加えることができ効果的でした。無回転の変化球サーブは変化を大きくするため，打ち出し速度の研究やサーブの山をわかりづらくするためネットすれすれを狙うなど工夫されました。ジャンピングサーブはリスクが高く，見たことがありませんでした。

サーブの善し悪しは，試合の流れを変えてしまうため，やはり確実にコートに入れることが大事でした。私は，プレッシャーに弱く，緊張してうまく打てない時が多かったと思いますが，最近の選手は，点を取ろうと力強くサーブを打っています。積極的で攻撃的な姿勢に感心させられます。ラリーポイント制の効果でもあると思います。

③ネットの高さについて（男子について）

ネットの高さは，今は，２ｍ３０ｃｍと大変高く感じますが，かつては，２ｍ１５ｃｍ（もしかして２ｍ２０ｃｍかも）と割とアタックが打ちやすい高さでした。うまくいくと鋭角に力強いアタックを決めることが可能です。しかし，私は，このことで失敗しました。打ちやすさの反面，強さだけを求め，アタックフォームが悪くなっていました。肘が曲がり，そのため打点が低くなったり，助走がバランスの悪い両足踏切だったり，上半身に力が入りすぎてボールを正確にヒットできず，エンドラインを大きく外すアタックになりがちでした。この悪い癖は，高校でネットが高くなると通用しなくなり，フォームの修正に随分時間を要したことを思い出します。恩師考案の器具をつけたのも懐かしい思い出です。

中学生には，是非，急がばまわれで，体力差はありますが，理にかなった正しいフォームを身につけてほしいと思います。また，ポジションの工夫でネットの高さに対する課題をチーム全体で攻略してほしいと思います。

④ハンドリングを含めたボールの接触について

腰より下のボール接触は反則でした。そのため，できるだけ腰を低くし，肘を支点とした腕の動きや手や指の使い方などの技術を高めることや正確性も求められました。また，ダブルコンタクトの反則の基準は，かなり厳しく，オーバーハンドレシーブは，反則になることがほとんどなので，守備位置を後方におき，後ろから前という意識でレシーブをしました。そこでよく使われたのが，フライングレシーブですが，修得が難しく，体のあちこちを打ち込んで，痣や擦り傷が絶えません。肘あては必需品でした。

普通にレシーブができるようになるまで時間がかかります。そのため練習の大半が，パスやレシーブ練習だったと思います。

今は，ファーストコンタクトでのダブルコンタクトの反則がないことで，よりラリーが続くようになり面白さも大きくなったと思います。

⑤その他

リベロ制が導入されてレシーブ力が向上し，作戦も立てやすくなり，人材活用に幅が広がりました。なかった時は，メンバーチェンジが重要な意味を持ちました。レシーブの苦手な私は，よく相手チームに狙われたのを思い出します。あのときリベロ制があったらチームに迷惑をかけなかったかも・・・。

ボールの色は，白で統一されていました。意外と距離感がつかみやすかったと思います。カラーボールは見やすいのでしょうか。指導の経験はありますが，実際の選手の評価を聞いたことがありません。その他，ベンチワークやハンドリング基準など細かな改正点が続き，現在のように落ち着きました。

ルールの改正によってプレースタイルも技術も大きく変わってきました。主なルール改正について下に資料としてあげておきます。自分の時はどうだったか振りかえってみるのも楽しいのではないでしょうか。

４．大会運営について

中学校の大会運営は，中体連やバレーボール協会をはじめ多くの関係者や保護者のみなさまの温かいご支援やご協力によってなりたっています。なかでも，学校の先生方の力に負うことが多々あります。ライバル心もありますが，昔から，教え助け合い，先輩教員も新任教員も関係なく，みんなで協力し合って中学校バレーボールを盛り上げてきました。審判も今では，帯同審判になっていると聞きます。バレー経験のない先生方には負担になると思いますが，ルールを覚え，各チームの特性を知る上では，役に立つのではないでしょうか。

私は，バレーが縁となり，教育活動全体にわたってたくさんの先生方からご指導やご助言をいただきました。最後まで仕事を成し遂げられず，途中で投げ出すこともあり，ご迷惑をおかけしたこともありました。それでも，ご支援していただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。お礼申し上げます。本当にありがとうございました。

５．おわりに

コロナ感染症という未曾有の危機の中で，部活動運営が本当に難しくなっています。各学校では，日々感染対策を実施し，安全に配慮しながらも今できることを頑張っておられます。一日でも早く普通にもどることを祈ってやみません。

中学校でバレーボールに出会い，全日本男子の活躍を描いた，ドキュメンタリーアニメ「ミュンヘンへの道」でバレーにのめり込んでいったことが，やがて自分の人生に深くかかわってくるとは夢にも思いませんでした。これからバレーを始める中学生も多いと思いますが，バレー競技との出会いが人生を豊かにする一つとなってほしいと思います。

みなさまの健康とご活躍をお祈りいたします。

主なルール変更の動き	
１９０８年	１６人制から１２人制に
１９２７年	９人制の採用
１９６４年	東京オリンピック（６人制）開催
１９６５年	ブロックのオーバーネットの許容
１９７９年	ブロックのワンタッチをカウントしない
１９８４年	サーブブロックの禁止
１９８９年	第５セット１７点まで
１９９４年	サービスゾーンが３ｍから９ｍに
１９９５年	腰下のレシーブ可，ファーストレシーブのダブルコンタクトは反則にならない リベロ導入
１９９８年	サーブネットインとラリーポイント導入
１９９９年	ネット上の押し合いプレー継続
２００７年	タッチネットをゆるくみる
２００９年	センターライン踏み越え反則なし

【一部『Active る！バレーボールの歴史とは？』を参考】

徳島県バレーボール協会 総会のお知らせ

【日時】令和３年４月４日（金）午後１時より
【場所】ホテルグランドパレス徳島

令和３年度 ６・９人制競技規則伝達講習会

新型コロナウイルス感染症予防のため，徳島県バレーボール協会ホームページを通じた文書伝達とさせて頂きますので，ご了承ください。

令和３年度 日本バレーボール協会Ｃ級公認審判員認定審査会

新型コロナウイルス感染症予防のため，会場での筆記試験は中止とさせて頂きます。資格習得希望の方は，徳島県バレーボール協会ホームページに令和３年４月１日からアップされる問題を各自でダウンロード・印刷し，解答用紙をホームページにある宛先まで郵送してください。

昭和から平成・令和へ

高橋　利明

その３　～ＡＢチーム制の導入～

中学校の大会は，文部科学省・教育委員会で回数を決められています。県大会は３回まで，ブロック大会・全国大会は各１回までとなっています。現在，ＪＯＣジュニアオリンピック大会，四国中学生バレーボール選抜優勝大会は社会体育ということで，文部科学省・教育委員会の規定外です。（どこが主催によって県大会の数え方が異なる県もあるようです）

ところで，大会の日程はどうやって決まっていたのでしょうか。昭和２１年に始まった徳島県中学校バレーボール選手権大会（以下「県中選手権大会」という）は１２月に開催されています。いくつかのリーグに分かれてブロックでの順位を競う大会でした。バレーボールは室内競技ではなく屋外競技で，９人制で行われていました。翌年からは，夏に開催（８月下旬）され，チャンピオンを決めるトーナメント制へと変更されています。昭和３４年になると，徳島県県中学校新人バレーボール大会（以下「県中新人大会」という）が秋開催（１１月下旬）されるようになりました。徳島県中学校総合体育大会（以下「県中総体」という）は８月下旬，８月上旬，７月下旬，夏休みに入ってすぐに行うという風に変更していきました。そして，全日本中学校バレーボール選手権大会予選（以下「全中県予選」という）が行われるようにもなり，県大会も事実上４回となりました。

県中学校選手権大会は５月３日，全中県予選５月最終日曜日，県中総体は７月下旬，四国中学校総合体育大会（以下「四国中総体」という）は８月上旬，全中大会は８月下旬，県中新人大会は１１月３日に始まるようになりました。（後に，全中は全ての競技が一斉に行われるようになり，県中総体，四国中総体がその予選を兼ねるようになりました）

以前の大会日程(例)							改訂したかった大会日程案(例)						
県中選手権大会の場合													
4月26日	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	4月26日	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	5月2日
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
			天皇誕生日							(天皇誕生日)			
										○		○	
5月3日	5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日	5月9日	5月3日	5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日	5月9日
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
憲法記念日		こどもの日					憲法記念日	(国民の休日)	こどもの日				
○						○	○						
5月10日	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月10日	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
						○							
※○印は大会の日程							※現在，4月29日は昭和の日，5月4日はみどりの日となっている。						
※５月４日は1988年から国民の休日となった。													
※1992年 9月12日から公立小中学校で毎月第2土曜日が休業日になった 。													
県中新人大会の場合													
10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
												○	○
11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月7日	11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月7日
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
		文化の日							文化の日				
		○				○						○	
11月8日	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日	11月8日	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
						○							

しかし，私は疑問を感じていました。それは，５月３日から始まる県中選手権大会。５月５日は試合日程から外れ，次の日曜日ごとに行われる。また，県中新人大会は１１月３日始まりで次の日曜日ごとに行われるということには大きな課題がありました。まずは，県中選手権大会からお話をします。５月３日に勝っても５月５日に試合はないため，次の日曜日に大会２日目が開催され，チームによってはこどもの日は練習を休みにするところもあります。そのため，チームによっては，チーム力が下がるように感じるところもありました。

さらに大会最終日（日曜日）の翌日は，優勝・準優勝としてチームや選手が嬉しさや悔しさという想いもあるかも知れませんが，それ以上に生徒たちの疲労についてどうにかしなければならないと思いました。さらに，教員も，多くの日曜日や祝日を大会に費やすというのは，休息も必要ではないか。また，家族で出かける時間をとる必要があるのではないかという点でもそのような日程について，疑問を強く感じました。

また，１１月３日は，各競技も大会をするところもたくさんあり，会場をなかなか押さえることができないこと，また地域での祭りがあちこちで行われていることが多いため，審判の確保が事実上できない，大会当日の朝に地域の行事を優先するため試合の棄権をする旨の連絡があるなど，とにかく大会を運営する面において諸問題を抱えていました。「５月３日，１１月３日始まりで，日曜日ごとに大会を開催するという昔からの規定を変えなければ解決につながらない」と。

そこで，練習試合でこのことについて，話をすると多くの方が賛成でした。といっても，反対する方もいました。その理由は，「１週間ごとに試合があることでチームの修正ができ，生徒の成長へともつながる。」というのです。しかし，「これからは，短期間で勝てるようにする。それが指導力です。それよりも教師，生徒が休息をとる。強いチームほど休息を取る時間を設ける必要があるのではないでしょうか。世の中の様子は変わっています。大会日程も変わらなければならないのではないでしょうか。」と話をし，納得してもらいました。

そして，常務理事会で提案することにしました。「県中選手大会は５月３日を最終日とする日程にする。県中新人大会は１１月３日を大会日程から外す。」と。すると思った通りの意見が出ました。それは，「５月３日終わりにしたら，事務処理が大変なのではないか。」「大会日程がつまって大変なのではないか。」「高校の大会とぶつかって審判が不足するのではないか。」その答弁は「事務処理が困るのではないかというが，事務処理全て私がやっています。その自分が主張しているのだから心配はない。」「大会日程がつまって困ることより，早く終わって，顧問教師の休息と家庭サービスができるという点，休息して欲しい生徒たちへも練習を休みにして休息できる時間が生まれるという点こそが，これからの社会に必要なことです。何もがむしゃらに何もかもする必要はないのです。」「審判だけに来ている人はいますか？いません。（大会最終日に来てくれる方はいます）学校の先生で全部まかなっています。大会初日の私は，自分のチームの試合が２試合，残り５試合は全て審判台に上がっています。そんな心配をしていただけるのなら，審判を派遣してください。」その結果，高橋（私）が全責任を負って大会運営をすることを前提に日程を変更することができました。しかし，それを優しくフォローしてくれたのは，理事長でした。「高橋君。無理せんとやれよ。（「無理のないようにするように」）」と。

という訳で，県中選手権大会は５月３日終わりの３日間，県中新人大会は１１月３日を外しての３日間で行うようになりました。ちょうどその頃に土曜日も学校が休みとなる学校５日制が後押ししてくれたようにも思いました。

【次回　２０２１年６月夏季５４号を予定しています】